

Safety Report

セーフティルポ 若者

埼玉県教育委員会が二輪に乗車する 高校生を対象とした交通安全講習をスタート

埼玉県教育委員会（以下、県教委）は1981年以来、継続してきた「三ない運動」（免許を取らせない・バイクを買わせない・バイクに乗らせない）を廃止し、今年4月から「高校生の自動二輪車等の交通安全に関する指導要項（以下、新指導要項）」として改訂し施行した。新指導要項では、二輪免許の取得を希望する生徒は保護者の同意のもと、学校に書面で届け出て、面談の上、取得できるとしている。バイクの運転や購入も学校に届け出ることによって可能になる（通学利用は遠距離のため自転車通学が困難な場合等で学校長の許可が必要となる）。

新指導要項の施行に合わせ、県教委は今年度からバイクの運転や購入を届け出た生徒を対象に「高校生の自動二輪車等の交通安全講習（以下、講習）」を県内各地で実施している。

「高校生の自動二輪車等の交通安全講習」には以下の団体が共催・後援している
共催
（一財）埼玉県交通安全協会
（一社）埼玉県指定自動車教習所協会
後援
埼玉県警察本部
埼玉県高等学校交通安全研究会
埼玉県二輪車普及安全協会
埼玉県交通安全対策協議会

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事村田憲一郎さんは「バイクに乗車する生徒に安全運転教育ができる環境を整備し、高校生の命を守りたいと考えています。この講習は交通社会の一員として自覚を促し、必要な知識や技能を身につけることで生徒の安全意識を高めることを目的としています」と説明する。7月25日、かごはら自動車学校（埼玉県深谷市）で県北部エリアの高校の生徒16名を対象とした今年度第1回目となる講習が開催された。講習は実技講習、講義、救急救命法で構成されている。

実技講習は、二輪車安全運転推進委員会に所属する二輪車安全運転指導員と埼玉県警察本部交通機動隊の白バイ隊員が担当。日常点検の項目と安全運転の基本となる乗車姿勢を確認した後、生徒が自分のバイクを運転し、ブレーキングやバランス、コーナリングなどの実技課題に取り組む。コーナリングでは、90度のカーブを20km/hから30km/hまで徐々に速度を上げて通過。カーブに表示されている二本の白線の間を通らなければならないが、速度が上がるにつれて、白線の外側にふくらんでいく。こうした体験によって、カーブには限界速度があることを知り、安全なコーナリング方法を習得する。



白バイ隊員が正しい乗車姿勢の模範を示しながら説明



コーナリングでは安全なカーブの曲がり方を習得



実技を始める前に、二輪車安全運転指導員がヘルメットのおこひもは指一本入る程度にしっかり締めるよう生徒に徹底

講習を後援する埼玉県二輪車普及安全協会事務局長 筒井賢吾さんは「私たち業界団体としても、二輪車を利用する高校生が事故を起こしたり、事故に遭わないようにするための教育は絶対に必要と考え、開催に協力しています。実技講習は、日本二輪車普及安全協会が作成したプログラム『高校生のためのSafety Riding!』に基づいて指導員が実施しています」と話す。

実技講習が終わると教室での講義となる。埼玉県警察本部交通総務課課長補佐 満保利光さんが、高校生の交通事故の状況や二輪車事故の特徴、事故に遭った時の対応について説明。さらに、二輪運転中の交通場面を提示し、危険予測トレーニングを行った。運転中は常に危険を予測しておくことや、自分から危険に近づかない「心のブレーキ」が重要であることを伝えた。最後は、かごはら自動車学校の

教習指導員による救急救命法。交通事故などの負傷者を見つけた時に必要な心肺蘇生（胸骨圧迫・人工呼吸）やAEDの使用について、生徒たちは体験を通じて学んだ。

講習を受講した高校2年の生徒は「指導する皆さんが丁寧に教えてくれたので、緊張せずに参加できました。安全確認の大切さをあらためて感じたので、それを意識して運転しようと思います」と感想を語った。また、普通自動二輪免許を取得して間もないという高校3年の生徒は「バイクでのツーリングを楽しもうと免許を取りました。コーナリングの課題では、カーブの手前で安全な速度まで落とすことの重要性がわかりました。今日学んだことをツーリングの時に活かしたいと思います」という。今年度の講習は12月にかけて全6回開催される予定だ。



一本橋では低速でバランスをとることの難しさを体験



講義では危険予測トレーニングなどが行われた

Close Up

クローズアップ Honda の活動

Enjoy Honda 2019 で「できるニャンと交通安全を学ぶ」を活用

Enjoy Honda は Honda ファンへの感謝イベントで、Honda のクルマ・バイク・パワープロダクツを通して、「見て、遊んで、体感する」ことを目的としている。製品展示をはじめ、様々な体験ができるプログラムやモータースポーツの魅力を体感するプログラムなど、子どもから大人まで幅広い方に楽しんでいただける内容となっている。今年度は来場者に交通安全への理解を深めてもらおうと「親子で学ぼう！交通安全」を実施。Honda が開発したプログラム「できるニャンと交通安全を学ぶ 小学校低学年

歩行編」を活用して、スタッフが子どもとその保護者に交通安全教育を行っている。7月20日、21日は交通教育センターレインポー浜名湖で開催。「親子で学ぼう！交通安全」は4～9歳の子どもとその保護者を対象に2日で18回（1回30分）実施された。

「できるニャンと交通安全を学ぶ」はアニメーションを活用した対話型のプログラムで、一方的に指導するのではなく、子どもの気づきを促し、双方向で答えを導き出す点が特徴となっている。アニメーションに

は「できるニャン」というオリジナルキャラクターが登場し、楽しく学べるように工夫されている。

進行役のスタッフは映像を流し、危険場面になると途中で止め、子どもたちにこの場面のどこに危険があると思うか聞いていく。そして、映像を進めて危険場面を確認した後、どのように行動すれば安全か考えてもらう。さらに映像を進め、同じ場面上からの視点や他の交通参加者の視点を見せながら、できるニャンが危険箇所の理由を解説した。この後、模擬の横断歩道を使っ



Enjoy Honda の開催は初となる交通教育センターレインポー浜名湖は2日間、多くの Honda ファンで賑わった

て、子どもたちが道路横断時の安全確認を実践し、終了となった。5歳の子どもと参加した母親は「映像を使っているのが、小さい子どもにもわかりやすい内容で、子どもが自分で考えて、一生懸命答えようとしているのが印象的でした。家庭でも子どもに交通安全について話していこうと思います」と感想を語った。



ポイントとなる場面で映像を止め、スタッフが道路に潜む危険を問いかける



何が危険なのか、どのように行動すれば安全かを子どもたちに考えて答えてもらう



できるニャンによる解説に耳を傾ける子どもたち



模擬の横断歩道でボールをクルマに見立て、「止まる」「観る」「待つ」を実践